

中古消防車等供与式における堀井外務大臣政務官の挨拶

(2月26日)

本日は我が国からの中古消防車等の寄贈にあたり、盛大な供与式を開催いただき感謝いたします。今回の供与式の重要性にかんがみ、私も東京から駆けつけました。

ペルーは中南米諸国の中で最も早く1873年に日本と外交関係を開設し、以来長い友好関係を維持してきました。日本とペルーは、自由、民主主義、人権、法の支配といった基本的価値を共有し、APEC, TPP、太平洋同盟などの地域的枠組みにおいても重要なパートナーです。また、ペルーは南米地域で最初に日本人の組織的移住を認めてくれた国でもあり、現在約10万人の日系社会が存在、ペルー社会において活躍されています。

このように長い友好関係の歴史を有するペルーは、我が国同様、地震、津波、水害等甚大な自然災害を被っています。このため、我が国にとりペルーへの防災対策・環境対策の分野への協力は、他人事ではない重みを持っています。今回の消防車等の供与はまさにペ

ルールの防災対策の一助となるものであり、我が国から寄贈した緊急車両が貴国の災害対策、緊急事態対策に資することを願ってやみません。

今回の消防車等の寄贈に関しては、クチンスキー大統領夫人が昨年11月に直接日本消防協会を訪問され、今回の支援に対し強い期待を表明されました。また、昨年6月、フォルサイト在京ペルー大使が同協会を訪問され、1台でも多くの消防車両等の寄贈と現地消防団員に対する技術指導を要望されました。その後、大使は4回、同協会を訪問されたそうです。大統領夫人をはじめとするペルーの皆様のご熱意に、今回わが国としても応えられた事を嬉しく思います。

日本消防協会を通じたペルーへの中古消防車の寄贈は1980年代にさかのぼり、累計300台を越えた、とうかがいました。また、同協会の玄関に展示してある蒸気消防馬車は、1993年にペルー消防団から寄贈された由です。昔から日本とペルーの消防関係者同士にも、浅からぬ関係があったことがうかがえます。

このように、両国の各層で幅広く関係強化が進むことは大いに歓迎されるべきと考えます。今回の中古消防車等の寄贈により、両

国の友好関係が一層緊密化することを切望しつつ、本日の挨拶とさせていただきます。